

## 画像工学同窓会会報

2000.8

## ●雑感： デジタル社会とハードコピー 画像工学科 学科長 北村孝司

デジタル技術は我々の生活を便利にするだけでなく科学技術の根底をも変えようとしている。自動車や電気製品を生み出した第2次産業革命により、我々は豊かな物質文化を根底として生活をしてきた。食べ物や衣服、住居は豊富にあり、大量生産と大量消費の生活で自由を味わってきたことになる。

科学技術から見ると物質の生産および加工に関する技術が中心となり社会の豊かな発展に貢献してきたわけである。そして、時代の後半では安定な社会を形成すると同時に、その弊害が環境破壊などの様々な問題として現れることになった。そして、現在、急速に

進んでいる情報技術による社会の変化は第1次情報革命と呼ばれ、電子情報の生成、加工、配布、交換が社会活動の基盤となり社会を動かしている。

すでにインターネット、電子メール、電子商取引など多くの新しい情報システムが全世界で稼働している。この情報化社会で人間は情報を食べて生活するのではなく、人間が豊かな生活をするための物質やエネルギーに加えて新しい生活基本が生まれたことになる。そして、物質を生産したり配布する方法がこれまでとは異なり、指示や情報伝達が電子的に行われる情報コミュニケーションにより進められるところの違いがある。

印刷、写真、電子写真は文字や画像情報を紙媒体上に表示する静止型ディスプレイと考えると、まさに第2次物質革命と第1次情報革命の基幹となる物

質と情報の両方に係わる技術であることがわかる。そのために時代の先端を行くと同時に社会や時代が変わるために大きな影響を受けることになる。文字や画像がデジタル情報として生成されたあと、ネットワークを通じて配布されるようになった。その後、受け手がモニターで読んだりあるいは紙メディアに出力して利用している。この情報の出力方法の選択は個人の好みによるところが大きい。

今後は、従来の紙のように手軽に持ち運べてディスプレイのように瞬時に表示可能な新しい技術である電子ペーパーや薄膜ディスプレイの研究開発がさらに進むことが考えられる。いま、使い慣れた紙メディアの役割を整理し、さらに高度なメディアとして進化させることが出来るか問われている。

## 画像工学同窓会第3回技術講演会のお知らせ

総会の前の時間に下記の講演会を開催します。自由に語って頂ける気楽な講演会です。是非、お誘い合せの上、ご参加ください。なお、参加の有無を振り込み用紙に記入の上送付ください。

記

日 時：2000年9月1日（金）午後2時30分から4時40分

場 所：KKRホテル東京（旧竹橋会館）

参加費：無料

テーマ：「21世紀の画像技術を語る—第2弾—」

講演1：「21世紀のハードコピー技術」

東海大学工学部 高橋恭介教授

講演2：「デジタル写真プリント2000」

東京工芸大学芸術学部 大野 信教授

講演3：「インクジェット技術の最近動向」

高島祐二氏【昭和43年卒業】

## 総会、懇親会のお知らせ

平成12年度の定時総会および懇親会を下記のように開催いたします。昨年より少し早い時期の開催となりました。是非、皆様誘い合せの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

記

開催日：2000年9月1日（金）

総 会：午後5時から5時30分

議 題：◆平成11年度事業報告、会計報告

◆平成12年度事業計画、予算案

懇親会：午後5時30分から

場 所：KKRホテル東京（旧竹橋会館）

東京都千代田区大手町1-4-1

地下鉄東西線竹橋駅下車徒歩1分

会 費：5,000円（当日お支払いください）

出席される方は、同封の振り込み用紙の出欠欄にご記入の上、8月25日までに到着するようにお申し込みください。

## 新入会員歓迎会

（新卒者を励ます会）

新入会員である画像工学科の新卒業生を囲み、懇談会を行う予定です。皆様是非ご参加ください。

日時：平成13年3月23日（金曜日）

卒業式、学位授与式終了後

場所：千葉大学学生会館

## 年会費納入のお願い

平成8年9月に工芸写真会と芝葉印刷学部会を含む会員数約4600名の画像工学同窓会が発足してから4年が経過いたしました。まだ、十分な活動が行われている状況ではないのですが、同窓会の会報発行などの活動運営は主に会員からの年会費でまかなわれております。同窓会の活動を活発に行うために皆様からの年会費の納入を是非お願いいたします。

会員の皆様には、年会費1,000円を同封の振込用紙により納入いただきますようお願い申し上げます。

千葉大学画像工学同窓会

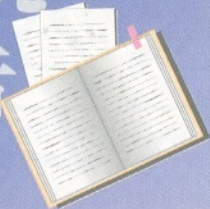
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

千葉大学工学部情報画像工学科内

電話・FAX：043-290-3479



# 近況 報告



## 千葉をはなれて

平成9年卒 石毛淳美

私は、大学院を修了した後、兵庫県立の職業能力開発施設で職業訓練指導員として勤務しています。しかしながら、学生時代には「先生」と呼ばれる職業だけには絶対就くまいと思って

いました。もともと、人前で話すことが得意ではなかったからです。だから、昨年1年間ぐらひは「先生」と呼ばれてもなかなかピンときませんでした。最近になってやっと「先生」と呼ばれることにも慣れましたし、まだ、流暢というには程遠いですが、人前でしゃべることにもなれてきました。

職業訓練の世界というものがどういうものか、就職するまでまったく知らずに入ったのですが、技術指導と生活指導の両面をしなければなりません。特に私の勤務するグラフィックアート科は、新規中学校卒業生以上が対象となっており、生活指導がメインとなっています。もともと、人に注意することが好きではないので、今でも、生徒を注意していて自信をなくしてしまうことが多々あり、改めて「先生」という職業の難しさを認識しています。

技術指導では、大学時代にサークル活動で行っ

ていた写真を実技に取り入れたり、印刷の教育を行う場合でも、大学時代の講義で学習した事を教えたり、割と大学時代の事が役立っています。また、科の先輩方も千葉大の画像系卒の方も多く、昔の大学の様子等を聞くことができ、懐かしくなったりします。

最後に、24年間暮らした千葉を離れ、神戸という知らない土地にきたわけですが、「住めば都」という言葉どおり、関西といっても、関東とそう変わらないな、という印象を受けています。それでも、距離的には遠いので、大学の同学年やサークルの先輩などに会う機会がめっきり減ってしまいましたが、帰省したときには、大学にも顔を出したいなと思っています。一方、関西にはたくさんの先輩がおられる、とおうかがいしました。いろいろお世話になることがあるとは思いますが、ご指導よろしく願いいたします。

## 最近おもうこと

平成10年卒 藤本美菜子

会社勤めを始めて二年が経った。独り暮らしは大学在学中から通算して六年になるけれど、在学中とは決定的に違うことが一つある。それは時間に対する価値観だ。予想はしていたことだけれど、平日には通勤時間も含めて最低十時間は拘束される。忙しかった日は定時に退社できても帰れば何もする気が起きないから、実際平日は私事に使える時間など無いに等しい。尤も、それは本人のやる気の問題ではあると思うけれど。

実は実家から勤め先に通うことは可能で、それを敢えて一人暮らしに踏み切ったのは、帰って食事や風呂の支度ができている、ということよりも、通勤時間を削減することの方が自分にとって価値が高く、魅力的だったからだ。このことを思うといつも「自分は時間を金で買っているのだなあ」としみじみ感じる。そして以前読んだ小説で主人公がこんなことを言っていたのを思い出す。「時は金なり」とは言うけれど、実

際には時間というのは金なんかよりずっと価値の高いものだ、と。成る程、と、思ったものだ。金で買えるなら安いものだ。自分に流れている時間が人生の一部ならそれは命に等しいかもしれない。

基本的に一日二十四時間は自分が自由にできる時間だ。そこに稼ぐ為に拘束される時間を組み入れるのも個人の自由の範囲である。私は選んでそうしている。けれど、やはり、最も無意味で、だからこそ贅沢な時間を私は欲している。貴重だと思うからこそ、限られた時間を有効に使おうという意思が働く。時間に対する意識の高さと取捨選択。無法にある時間を無為に過ごすことで膨大に無駄な(けれど無意味ではない)情報と経験を得ることと、少ない時間を自分にとって優先順位の高い順に使って必要・不必要を切り分けるのを、単純に比べることはできない。しかし、少なくとも、大きな意味での「時間」の貴重さを、この二年で学んだことは確かだ。

ところで、最近とても思うことがもう一つある。それは記憶力の低下だ。年齢を経たせいだけでは言えないけれど、自分の脳もパソコンのハー

ドディスクのようだと思う。生まれた時から保存してきた情報がついに脳のキャパシティの大部分を埋めてしまったようだ。古い情報は何度も出し入れしているうちに既に半分腐って癒着してしまって消すことができない。だから残り少ない可動領域で情報を書き込んだり消したりしている。そのせいでごく最近のことで取り出す情報が断片しか見つからない。そんなふうを感じる。外付けでもいいから増設できればいいのに、などと、しょうもないことを思ってしまう。おかげでどんな些細なことでもメモを取る癖がついたけれど、なんだかなあ、とも思う。とりあえず、一生懸命動かし、鍛えて、脳自体が腐ってしまうのを回避なくては。

歳を重ねるのは嫌いじゃない。繰り返してきた選択によって制限が増えたとしても、それは一方で経験値が上がったことを示していると思う。「幾つ歳を重ねたか」ということよりも「どう歳を重ねたか」ということ。時間も身体も有限だからこそ、自分に恥じないように、悔いがないように、もうちょっと、頑張ろうかな、と、思う。



## いわゆる社会人になってみて

平成10年卒 國生 玲

すでに学生でなくなってから、気が付けばもう2年もの時間が過ぎている。在学中から仕事をしていたということもあり、卒業するにあたって、社会にでるという感覚はあまり無かった、というのが正直な感想だ。もちろん、学生時代は学費を稼ぐために、学業の片手間に仕事をしていただけで、いざ、仕事に専念できるという状況からいえば、大学を卒業できたということは、大変に好都合に感じたこともあった。

学校に行くという時間が無くなり、いくら仕事に専念できるからといっても、所詮はフリーランスである。安定した収入があるわけでもなく。日々、大小の仕事に追われながら1年が過ぎたころ、画像のある先輩のご縁でとある方と

お話する機会を得た。人生に転機というものがあるのなら、そのときがそうなのであろうと、今は思っているのだが・・・。その時を境にして、社会人としても一人の人間としても、自分自身が大きく変革したことを実感している。

とある方とは、現在勤務している会社の常務である。何を思ったのか、即座に私に職を案内してください。海のものとも山のものともつかない私を、自分の会社に呼んでくださるとはすごい人である。雲の上の上司としても一人の人間としても興味深い方であることは確かである。お会いしてから入社するまで半月なかった。引越や仕事の後始末が大変だった。それはともかく、今の私の職業はゲームの企画。今風に言うならば「ゲームプランナー」である。

我ながら何を思ったのだろうか。面白そうだと漠然と思っただけなのかもしれない。その方の人間性にうたれたのかもしれない。とにかく、

今の会社に入ってフリーランスでは学べなかったことをたくさん教わっている。今までとはまったく異なる仕事に対する姿勢。お金を得ることの責任と大変さなど、挙げていくとキリが無い。いままでに、思っていたプロ意識などがまるでゴミのように思える始末である。

お客を喜ばせてナンボの世界。かくも厳しい世界があったのかと思えるが、今はこの世界で、なんとか名を成したいとおもう。まだまだ、若輩で学ばねばならないことばかりだが、いつの日にかこれをお読みの皆様方の前に、颯爽と現れたいものである。残念ながら今の職場では、大学で学んだことはあまり活かされているとは思えませんし、同窓の皆様と直接お仕事で一緒にさせていただく機会はありませんが、何かの折には、ご指導よろしく願いいたします。





## 先輩たちあつての仕事? 2 1990年卒 中村 幹

(株)印刷学会出版部で『印刷雑誌』を編集している中村です。昨年の同窓会報の続きを寄稿させていただきます。今回は、スペースをあまりいただけなかったので、いきなり私の仕事内容を紹介します。

登場人物は全て同窓会の先輩です。

○月△日 九州産業大にいらした木下堯博先生が国際印刷大学校なるものを立ち上げたので、設立総会に取材に行く。発起人、教授陣を見ると、おっー、ほとんど先輩方だった。富士技研の石川恵一さん、富士フィルムにいらした伊藤晴夫さん、都立技術専門校の小早川亨さん、印刷学会中部支部長の田中尚安さん、印刷コンサルタントをなさっている松根格さん、田村健一さん、神永貴史さん、育英高専の三浦澄雄先生らがいらっしやう。

○月△日 コダックポリクロームグラフィックの佐藤徹さんからビールでも呑もうと誘われた。有楽町のガードした近くの焼き鳥やに行き、小森コーポレーションの吉川武志さんと合流。佐藤さんと吉川さんは中学からの友達らしい。

○月△日 恒例の國司先生の梅取り。いつもの遠山さん、斉藤さん(ともに千葉大)、東芝エンジニアリングの伊藤さんのほか、今年は、大蔵省印刷局の中西宏光さん、京セラの藤本英明さん、大日本印刷の北見公司さんが加わった。北見さんとは、7~8年前にホログラフィの取材でお会いしたが、そのときはお互い同門の仲だとは知らなかった。このような実は同門だったという先輩後輩と、知らず知らずたくさん会ってきているんだと思う。

○月△日 ドイツ・デュッセルドルフにdrupa2000の取材に行く。大蔵省印刷局の貫井義昭さんは当社の視察ツアーに無料で申込んでくれた。なんと勉強熱心かつやさしい先輩だろう。富士写真フィルムがパーティを催し、富士

フィルムの渡辺優さんやプロセス資材の小田洋三さん、富士ゼロックスの堀江潔さんらに会う。小田さんと堀江さんは同期らしい。

○月△日 図書印刷の川越工場に取材で呼ばれる。工場設備を案内してくれたのは北村雅一さんだった。

○月△日 CTP特集をどうしようか考えて、大日本スクリーン製造の平林利文さんに電話した。平林さんや同社の郡司さん、福原節寿さんは雑誌の企画や記事についてよく相談のってくれるやさしい先輩である。

○月△日 当社社長の山本隆太郎の代理で関西支部の同窓会に行くことになった。

土曜日なので大阪の学校でも訪問しようと、大阪市立工芸高校の花畑雅之先生に電話する。花畑先生は当社新刊『グラフィックアーツ』の執筆陣の一人。同窓会名簿を見ていたら、先輩と知ってビックリ。同校では、土永善之先生とも挨拶させていただいた。

(来年につづく)



## 新入会員の就職先

平成12年3月に大学を巣立った会員の就職先を紹介いたします。本年度(平成12年度)の就職担当は長谷川教授・立田教授です。まだまだ多くの卒業予定者が就職活動に奮闘いたしております。なお、来年度(平成13年度)の就職担当(予定)は本田教授・星野助教授です。

### 千葉大学工学部画像工学科 126名

ジャステック、ピーエフ、ミマキエンジニアリング、FJB Web テクノロジー、NET ONE SYSTEMS、NTT東日本(2)、PFU、朝日印刷、インテック、オリンパス光学工業、キヤノン、グラフィックジャパン、セイコーエプソン、第一生命情報システム、中日新聞、トイインクル、トッパン・フォームズ、凸版印刷、ニッセイ情報テクノロジー、ビジネスブレイン太田昭和、日立システムアシスト、ビデオリサーチ、廣済堂印刷、レンゴウ、横河電機、共同印刷、三井造船システム技研、水上印刷、栃木ミツミ、日産化学、日比谷コンピュータシステム、日立公共システム、日立情報システムズ、日立製作所、浜松ホトニクス、富士ゼロックス情報システム株式会社、富士フィルムソフトウェア株式会社、富士総合研究所、富士通デジタルテクノロジー、宝印刷、教職など(2)、大学院など進学(63)、未定その他(19)。

### 千葉大学大学院自然科学研究科像科学専攻 56名

関西ペイント、富士通ビジネスシステム、シャープ、富士通ゼネラル、FJB、KJK研究所、NTTデータ、NTT東日本(5)、PFU、TDK、アルプス技研、科学技術振興事業団、カネボウ化粧品、ケンウッド、国際航空、小森コーポレーション、コンパックコンピュータ、ソニーシステムデザイン株式会社、大日本印刷、テレビ東京、東京磁気印刷、凸版印刷、日本道路公団、日立製作所、日立超LSIシステムズ、フジクラ、富士通FIP、富士通システムソリューションズ、富士通ゼネラル、本田技研工業、八洲エンジニアリング、ユニバース、リコー、関西ペイント、小糸製作所、朝日新聞社、東レ、日本IBM、未定(6)、博士課程など進学(7)



## 古矢先生退官記念最終講演および懇親会



本年3月末日をもちまして、40余年の永きに亘り印刷系教育に情熱を込めて来られた古矢泰一先生がご定年退官されました。論文の数で学位が決まるような制度には迎合できないという反骨精神旺盛な先生は、生涯一助手を貫かれ、学生実験や演習で学生に直接関わって印刷技術を教示し、人間的に触れあう事こそを教育の最も大切な事とされて来られました。本来なら、講師以上を対象とする学科主催の「最終講義」というものは催されませんが、卒業生を中心とする学外から、古矢先生退官記念行事開催の要望が強く学内へ要請されました。そこで、学内に実行委員会が設けられ、CD勉強会(印刷関連の千葉大卒業生を中心とした勉強会)の後援を受けて、「最終講演および懇親会」が開催されました。

当日(3月17日)は、昭和30年代前半から最近までの各年代に亘る卒業生が、北海道・長野・岐阜・兵庫・奈良などの遠方からも駆付け、金曜日の午後という平日にも関わらず学外からの参加者数が70名にも上りました。学内の教職員や学生も含めると100名を優に超え、140人が着席できる本学部の特別教室を使用した最終講演では、立ち見の出る程でした。まず、講演に先立

って北村孝司教授から古矢先生の略歴や、多趣味で多芸なお人柄が紹介されました。講演内容は、先生が永年に亘って感じて来られた学生気質の移り変わりや、ご趣味の模型飛行機の海外の大会に参加された際に遭遇された苦境とそれを乗り越えた英語力の重要性など、同窓生へのメッセージとして楽しく、また、熱く語られました。先生は最初「30分も時間はいらぬよ」と言われてましたが、45分の講演時間では足りない程の熱弁でした。

懇親会は会場を大会会館に移し、同窓生を代表して昭和32年卒業の谷口九夫様の音頭による乾杯で開宴。各年代の方それぞれが先生と旧交を温められ、また、年代を超えた卒業生間の交流が持たれました。先生のお嬢様と5歳のお孫さんも講演会から続けて参加され、和やかさを増しました。在校生の発案で先生への寄せ書き台紙が用意されて各人が思いのメッセージを書き記しました。昨年退官された三位信夫先生(古矢先生とは同期生)による中締まで、大盛会の会合であったことをご報告しておきます。

本会合は、古矢先生が直接にご教育ご指導をなされた、短大・Bコース・北村研・小寺研の卒業生を対象にご案内しました。本会合後、上記以外の方々からも通知して欲しかった旨をよく耳にいたしております。ご連絡できなかった皆様には、この場を借りてお詫びを申し上げ、本稿の結びとさせていただきます。(記 斎藤一)





## 1999年度 事業報告

### 1) 第4回定時総会

総会および懇親会を1999年10月8日(金)KKRホテル東京(東京竹橋)にて開催した。総会では、はじめに会長挨拶が行われ、続いて1998年度事業報告、会計報告、監査報告が行われ承認された。さらに、1999年度予算案および事業計画について説明があり承認された。引き続き、懇親会を開催した。参加者は40名であった。

### 2) 第2回技術講演会

1999年10月8日(金)KKRホテル東京(東京竹橋)にて午後3時15分から開催した。

タイトルは「21世紀の画像技術を語る—第1弾—」

講演1: プリブレスの今後を語る

大日本スクリーン製造(株) 郡司秀明氏

講演2: デジタル化により変化する米国印刷業界を観る

(株)コダックポリクローム 榎本哲己氏

### 3) 会誌発行

会誌第2号を発行した。

### 4) 新入会員歓迎会(新卒者を励ます会)

新卒者を励ます会を2000年3月23日(木)千葉大学画像工学科の卒業式の後に、千葉大学学生会館にて開催した。

### 5) 関西支部

1999年7月17日(土)大阪東洋ホテルにて総会を開催

## 2000年度 事業計画案

### 1) 第5回定時総会および懇親会

2000年9月1日(金)午後6時からKKRホテル東京(東京竹橋)にて開催の予定。

### 2) 第3回技術講演会

総会の前に開催する予定。

### 3) 会報の発行

第3号の発行を予定する。

### 4) 新入会員歓迎会(新卒者を励ます会)

(新卒者を励ます会を2001年3月23日(金)千葉大学画像工学科の卒業式の後に、千葉大学学生会館にて開催する。)

### 5) 関西支部

2000年7月15日(土)に大阪東洋ホテルにて総会を開催。

### 幹事会

2000年6月9日(金)アルカディア市ヶ谷にて開催。1999年度事業報告および会計報告、2000年度年間計画の検討、役員、総会準備、会報の発行、ホームページの開設などについて検討。

## 画像工学同窓会平成11年度会計報告(案)

(平成11年4月1日~平成12年3月31日)

### 収入の部

内訳	決算
前年度繰越金	9,471,125
総会会費	120,000
年会費・寄付	1,372,720
工学部同窓会より活動費	116,000
利息	9,224
小計	1,617,944
合計	11,089,069

### 支出の部

内訳	決算
委員会費	83,957
新卒者を励ます会	300,000
総会経費	463,236
通信費	615,542
会誌編集発行費	458,025
雑費	360
慶弔費	15,750
小計	2,037,370
次年度繰越金	9,051,699
合計	11,089,069

## 次年度繰越金(平成10年度残高)内訳

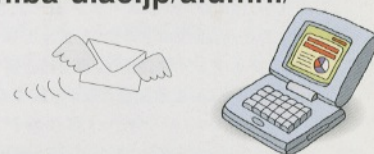
定期預金(千葉銀行)	5,000,000
普通預金(千葉銀行)	668,664
郵便振替	3,194,120
現金	188,915
合計	9,051,699

## ホームページができました!

まだまだ暫定的なものですが、同窓会のページを開設しました。今後、充実させていく予定です。URLは、

<http://image.tp.chiba-u.ac.jp/alumni/>

です。



## 平成11年度の技術講演会・総会の写真



山司康雄 会長



講演会風景



コダックポリクロームグラフィックス  
榎本哲己氏

